

なにやってんだよ!

ネットワーク管理者・池田の 第4回 ネットワーカーたるもの、地震のときにもあわてずに!

昨年の阪神大震災からすでに1年以上経ち、次は関東エリアであろうかと思えるほど最近では地震が多い(と思うだろう? 読者諸兄)

ブラウザがビットマップをロードし終えるのを待ちながら、テキストエディターでメールを書いていることも多いだろう。そんなときに地震になったら、何をすればよいのだろうか?

「すぐにセーブ!」は早計

地面が揺れ建物が揺れば当然電柱も揺れる。最近ではまずないとと思うが、その揺れの影響で電線が切れたり接触不良になったりする可能性がないとはいえない。

また、自分の計算機の設置状況が劣悪で、設置している机の上で大きく揺れ動き、小さな物が落ちてきて外付けディスクのケーブルが外れてしまうかもしれない。だからこそ、いま開いているファイルは急いでセーブすべきだといえる。

しかし地震の影響で揺れているのは、大きな塊としての計算機だけではない。中に入っているハードディスクも揺れている。そこへ書き込むわけだからディスクがクラッシュすることもあるだろう。ファイルサーバーなど過去の蓄積が大きい場合は、それらのファイルを守るため、現在の作業を諦めたほうがよいかもしれない。

電話線の向こう側にもハードディスクがある

さて、今度は地震時のインターネットへのアクセスについて考えてみよう。電話線の向こう側、つまりプロバイダーが備えている各種サーバーにはディスクがついている。WWWサーバー(注①)、FTPサーバー(注②)はいうに及ばず、裏で支えてくれているDNSサーバー(注③)にもディスクは付いている。これらのデータは一度ディスクに書き込まれたあとは何度も読み出されるだけ、つまり蓄積されたデータだ。

それでは、地震で揺れているときは他のサイトのディスクをクラッシュさせないように、アクセスしないほうがよいのだろうか?

脚注 ①WWWサーバー: WWWはワールド・ワイド・ウェブ(World-Wide Web)の略。ネットスケープなどで見るホームページの情報が格納されているコンピュータのこと。
②FTPサーバー: インターネット上で使えるファイル・サーバーのこと。FTPはファイル・トランスファー・プロトコル(File Transfer Protocol)の略で、インターネット上でファイル転送するための標準規格。
③DNSサーバー: ドメイン名とIPアドレスを管理するサーバー。
④輻輳: これについては今月号の特集で詳しく解説しているのだから、そちらを参照してほしい。

地震で揺れている時間そのものは、ホームページ1ページを転送する時間よりも短い場合が少なくない。また、サーバーがある地域がいま地震かどうか、瞬時に察知できるわけもないので、あまり考えてもしかたがないのかもしれない。しかし、今現在あなたがいる場所が地震のときには、とにかく落ち着くまで無駄なアクセスは避けるべきだろう。

災害時はみんなが電話をかけたがる

今度は迷惑という点から考えよう。ダイヤルアップの場合は公衆回線を使うわけだから、家族の無事を確認するための電話の邪魔をしてしまう。大量の電話が一時に行き交えば、NTTの交換機が輻輳(注④)することもありえる。

大被害がでるほどの地震の場合、特に昨年の阪神大震災ではいくつものサイトやBBSなどで情報提供が始まっていた。これらの情報を他の人が有効に利用できるように、通信を邪魔しないよう、ちょっとの間、お遊びを控えるのも良識といえるのではないだろうか。

地震に備えて配線環境を見直そう

最後に身近な問題を1つ。次の大地震は関東エリアかもしれない。そうなった場合、まず急いで安全な「ちゃぶ台」の下に逃げ込みたいものだ。が、普段からのケーブル設置がマズいと、逃げるときに足を取られ、あっという間に大型モニターの下敷きになってしまいかねない。常日頃からケーブルに気を配っておくことは、こういった緊急時に対応するための第一歩である。また、阪神大震災のようなとんでもない地震が起きたときのために、パソコンを載せている机やラックマウントを壁に固定しておくことも必要だろう。そして揺れが収まったら、ノートパソコンとモデムカード、そして無線電話を持って、救助活動を手伝おう。

1月17日にはインターネット上で防災訓練が行われた。読者諸兄の場合、まず配線をすっきりさせることから始めよう。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp